

植物レプリカを作製しました。

恩納村博物館では今後の展示に活用し、来館者に広く紹介するため、村花・ユウナ（和名オオハマボウ）、村木・フクギや万座毛に自生し、沖縄県指定天然記念物「万座毛石灰岩植物群落」に含まれているハナコミカンボク、オキナワスミレ、オキナワマツバボタン、イソノギクの6点の植物について、レプリカ（模型）を作製しました。

村花 ユウナ（和名・オオハマボウ）



ユウナは海岸や川岸、マングローブ林の後方などに生えて群落をつくり、世界の熱帯地域に分布しています。また、屋敷林や街路樹、海岸の防風・防潮林としてもよく植えられています。葉は卵のような円形で基部が深く湾入し、ハートのような形をしています。葉の裏面は毛が密生して白っぽいことも特徴です。花は半開き状で黄色く、翌日には橙色に染まって花ごと落下します。砂泥地では幹が地際をはい、絡み合ったようないびつな樹形になることが多いです。

樹皮は縄や編み物に、葉は食物を包んだりするのに用いられたほか、トイレのちり紙の代わりにもなりました。

フクギは高さ15mほどになります。幹が直立し葉が密集するので、昔から屋敷などの防風、防潮、防火用に多く植栽されてきました。そのため、恩納村内の集落でもフクギに囲まれた民家や御嶽をよく見かけます。また、集落の周辺の林内には逸出した幼木が見られます。葉は厚い楕円形をしており、光沢のある深い緑色をしているのが特徴です。果実は球形で夏場に黄色く熟します。国外では台湾やフィリピンなどにも分布しています。幹は木材として利用されるほか、樹皮からは黄色の染料が取れ、利用されていました。

村木 フクギ



ハナコミカンボク（沖縄県指定天然記念物「万座毛石灰岩植物群落」）



海岸の隆起サンゴ礁石灰岩地域の岩の隙間や樹下に生える小低木です。直立して高さ15～40cmくらいになり、細い枝を多く出します。葉は卵のような楕円形をしており、枝に並ぶようにしてついています。花は淡紅色の小さな花で、下に垂れるようにして咲きます。

オキナワスミレ（前同）

海岸断崖に生える多年生の植物です。葉は三角形のようなハート形で先は円くなっています。表面は緑色、裏面は少し白っぽくなっています。花は淡紫白色で長い花梗（かこう）の先に単生します。

